

当財団の仁井田浩二氏が、平成 30 年度全国発明表彰で「21 世紀発明賞」を受賞しました。

理化学研究所、東芝エネルギーシステムズ株式会社、日本原子力研究開発機構及び科学技術振興機構の特許「放射性廃棄物の処理方法（特許第 6106892 号）」が、公益社団法人発明協会「平成 30 年度全国発明表彰」の「21 世紀発明賞」を受賞しました。

全国発明表彰は、我が国の科学技術の向上と産業の発展に寄与することを目的に創設された日本の知的財産関係の表彰では最も格式の高い表彰です。また「21 世紀発明賞」は科学技術的に秀でた進歩性を有し、かつ大学及び公設研究機関等に係る発明が対象となります。受賞した発明は、高レベル放射性廃棄物に含まれる半減期の長い核分裂生成物の資源化と低減化を実現するために、偶奇分離と加速器による核変換を組み合わせた方法です。当財団の仁井田氏は他 8 名の発明者とともにこの発明賞を受賞しました。

高レベル放射性廃棄物の後世代への負担を軽減することを目的に、ImPACT プログラム「核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化」において更なる技術開発を推進しています。



平成 30 年 6 月 12 日（火）にホテルオークラにて常陸宮殿下の御臨席のもと表彰式が行われました。